



TITLE:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 144

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 144. 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 1964, 144: 19-22

ISSUE DATE:

1964-09-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186894>

RIGHT:

水族館月報

No. 144

1964年8月

8月の入場者数

一般		団体		有料合計	特別観覧
大人	小人	大人	小人		
59,860	10,005	6,914	3,112	80,104	580
前年度比		1963	1964	増	減
入場者数		80,044	80,104	+	60

水族館記事

- ◎ 5日 南浜に漂着した海藻や流木についていた、エボシダイ、マツダイ、アミモンガラなどの幼魚26個体を採集した。このうち、エボシダイは入槽直後に死亡したが、他の幼魚は翌日より餌につき、予備卓上水槽で育成中。
- ◎ 10日 海水取入口からポンプ室に至る導水管（内径50cmのヒューム管、延長約80m）の途中に設けられた、管内清掃用マンホールは、コンクリート蓋の改良のために、板で仮蓋をしてあつたが、これが波浪のためにずれて、導水管内に大量の砂が流れ込み、一時揚水不能となつた。この砂はすぐにとり除き、揚水ポンプの運転を再開したが、導水管の奥部にはここ数年来、少しずつ流入した砂が、パイプ断面の60%を埋めており、この土砂をとりのぞくための適当な方法と器具を検討中である。
- ◎ 13日 K水槽で2年5カ月間飼育したマダイ1個体（全長25cm、入槽当時9cm）が死亡。外観は、天然の3才魚にくらべて著しく肥満し、体色が黒ずんでいた。解剖したところ、下腹部と背鰭軟条基部の皮下に脂肪質の塊ができ、それが潰瘍を起していた。死因は、長期飼育魚類にしばしばおきる脂肪過多障害と推定されたので、以後この水槽のマダイへの給餌は減量することにした。

- ◎ 15日 久々に、雑賀崎一本釣漁師より、モンガラカワハギ1個体が入槽。A水槽に収容した。
- ◎ 18日 江川よりメガネウオ2個体入槽。Na29水槽に収容したが、すぐに砂の中へ潜つてしまい、よほど注意しないとわからない。ミシマオコゼ属の魚は、元気であれば砂に潜つてしまうし、潜れないように敷砂を浅くすると長生きしないので、展示上はなはだ都合が悪い。
- ◎ 25日 本学西間木久郎経理部長、視察来所。
水槽室才2次拡張計画を検討した。
- ◎ 28～31日 飼育係の訓練をかねて、本学水産学科学生6名にSCUBA潜水の講習を行ない、最終日には、全員が一応潜れるようになった。
- ◎ 8月の動物入手概況

1. 採集作業

日 時	採集場所	方 法	人員	主な目的動物
4日午後	塔島東磯	素 も ぐ り	2	ソラスズメダイ
5日夕方	南 浜	流 れ 藻 採 集	2	藻につく幼魚類
8日午後	円月島北側	タイド・プール, SCUBA	1	ハ コ フ グ
12 "	四 双 島	SCUBA潜水	2	熱帯性小型魚類
13 "	北浜沖暗礁	素 も ぐ り	3	ツ ノ ダ シ
17 "	"	"	1	"
25 "	円月島東側	SCUBA潜水	2	熱帯性小型魚類
27 "	" 西側	素 も ぐ り	4	"
30 "	北浜沖の磯		2	"

主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽）

無脊椎動物：ギンクラゲ、タコクラゲ、オヨギイソギンチャク、サンゴイソギンチャク、☆カルエボシ、*Stegopontonia commensalis*、ゴシキエビ、☆オキナガレガニ、ヤマトウミウシ、ミノガイ、オミナエシダカラ、オオブンプク。

魚 類：☆エボシダイ、リュウキユウヒメジ、☆インドヒメジ、☆マツダイ、ヨコシマクロダイ、ノコギリダイ、ミナミゴンベイ、クマノミ、☆イトベラ、サザナミヤツコ、オニハタタテダイ、ツノダシ、☆ニシハギ、ノコギリハギ、ハナミノカサゴ、☆オビアナハゼ、ベニイザリウオ。

2. 購 入

主な購入動物名

無脊椎動物：☆テナガテツポウエビ，トゲシヤコ，☆イボアシヤドカリ，☆トゲツノヤドカリ，キメンガニ，トラフカラツパ，☆ナナトゲコブシ，ケブカツノガニ，☆イタボガキ，☆コロモガイ，

魚 類：ツバクロエイ，タカクラタツ，イツトウダイ，ツムブリ，ハウセキキントキ，イトタマガシラ，メガネウオ，☆マトウギス，☆ヒゲハゼ，タコベラ，テンス，モンガラカワハギ，コバンザメ。

◎ 飼 育 概 況

高水温が続いているため，長期飼育魚類（H水槽のハマチ，K水槽のマダイなど）の死亡がひきつづいた。原因は脂肪過多障害らしい。

前月C水槽に発生した，好塩菌によると思われる症状は，その後新鮮海水の換水回数を増したところ，D水槽のベラ類に散発しただけで，蔓延は防がれた様子である。

無脊椎動物では，やはり高温にともなう酸素不足で，Na 2水槽のトゲトサカ類 Na 2 3小バット群の小型甲殻類の死亡がめだつたので，それらの水槽の給水方法の改良を研究中。

G水槽のタカアシガニ2個体は水槽内で2度目の夏を無事にすごし，元気である。

8月31日現在，飼育中の動物は，総計471種 3090個体以上で，その内訳は次の通り。このうち，観覧水槽に飼育，展示中の動物は，462種3005個体以上。

カメイノ類	2種	5個体	ゴカイ類	5種	16個体	イカ類	一種	一個体
ヒドロ虫類	1"	3"	カブトガニ類	1"	7"	タコ類	1"	1"
ハチクラゲ類	1"	1"	フジツボ・カメノデ類	5"	44"	ウミシダ類	4"	14"
ウミトサカ類	6"	20"	エビ類	17"	105"	ヒトデ類	7"	102"
ヤギ類	7"	63"	シヤコ類	3"	24"	クモヒトデ類	2"	7"
ウミエラ類	2"	7"	ヤドカリ類	10"	72"	ウニ類	12"	125"
イソギンチャク類	8"	36"	カニ類	45"	383"	ナマコ類	7"	35"
イシサンゴ類	8"	42"	アメフラシ類	4"	5"	ホヤ類	2"	6"
ツノサンゴ類	1"	1"	二枚貝類	21"	77"	軟骨魚類	7"	39"
ハナギンチャク類	1"	12"	巻貝類	46"	496"	硬骨魚類	228"	1211"
ホウキムシ類	一"	一"	ヒザラガイ類	1"	5"	カメ類	3"	126"

資 料

8月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重は№24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：24	7	10	7
室温（℃）	$\frac{28.0 \sim 29.0}{28.5}$	$\frac{28.0 \sim 29.6}{28.6}$	$\frac{27.3 \sim 28.9}{28.1}$
水温（℃）	$\frac{27.70 \sim 28.56}{28.20}$	$\frac{27.84 \sim 28.68}{28.30}$	$\frac{27.92 \sim 28.74}{28.23}$
比重（15℃）	$\frac{23.92 \sim 24.97}{24.56}$	$\frac{24.72 \sim 24.97}{24.83}$	$\frac{24.43 \sim 25.07}{24.83}$

才3水槽室（水温）

H水槽（℃）	$\frac{28.2 \sim 29.0}{28.6}$	$\frac{27.6 \sim 28.8}{28.2}$	$\frac{27.4 \sim 28.3}{27.8}$
T-8水槽（℃）	$\frac{28.0 \sim 28.7}{28.4}$	$\frac{27.7 \sim 28.4}{28.2}$	$\frac{27.8 \sim 28.6}{28.1}$

海水取入口

水温（℃）	$\frac{27.60 \sim 28.80}{28.23}$	$\frac{28.38 \sim 29.00}{28.78}$	$\frac{27.88 \sim 29.38}{28.52}$
比重（15℃）	$\frac{24.42 \sim 25.54}{24.86}$	$\frac{24.71 \sim 25.10}{24.96}$	$\frac{24.85 \sim 25.12}{25.01}$

昭和39年9月15日 (No. 144)

編集兼発行者 市 川 衛

発 行 所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話(白浜) 2047. 3515